

新 評 論

 2026
9・10
No.358

 発行所 © 新 評 論 2026年
〒169-0051 新宿区西早稲田3-16-28
TEL03-3202-7391 FAX03-3202-5832
http://www.shinhyoron.co.jp
e-mail: shrn@shinhyoron.co.jp
振 替 00160-1-113487 価格税込


3人のギリシャの若者を描いた1991年の作品。先頭の像は芸術家の分身であり、その前（写真左端）に立つのが生身の本人

孤高の芸術家が築いた唯一無二の野外美術館を紙上で再現しつつ世界的な注目を集めるITEアートを紹介する本邦初の実術案内！

ヴェイヨ・ロンツコネンの生涯

フィンランドITEアートの世界

ヴェリ・グラノ／植村友香子 訳

◆ジャンル：フィンランドの芸術・文化／美術批評

フィンランド南東部、ロシア国境に近いパリツカラの町に、とても不思議な空間があります。地元の芸術家ヴェイヨ・ロンツコネン（一九四四―二〇一〇）が、五〇年の歳月をかけて築き上げた「彫像庭園」（二種の野外美術館）です。緑と花に溢れた広い園内のそこそこに五五〇体以上のコンクリート彫像（その多くは等身大）が佇む光景は、訪れた人に未知の体験を促します。作家の没後も継承されたこの庭園は、いまや世界中から年間数万人が訪れる近隣有数の観光名所ともなっています。

ロンツコネンは、フィンランド独自の芸術分野「ITEアート」を代表する存在です。ITEとは「自らつくる人生」の意で、仏英発のアウトサイダー・アートとは一線を画し、正規の美術界に属さない人々が自宅敷地をアトリエに、身近な素材を使って自然や生活と一体化した形で創作を行う点特徴とします。

本書は芸術家の最大の理解者が、豊富な写真と証言をまじえてその生涯と創作の源泉に迫るビジュアル評伝です。痛みを抱えた孤独な少年が、重度の社交不安に苛まれながらも独学で造形美術の道を進み、心身の調和と他者からの承認を得ていく物語はビルドゥング

ス・ロマンのようでもあります。一方で、創作の動機はごく個人的・日常的でありながら、その作品群は神話や民間伝承、エロティシズム、エキゾチシズム、自我と無意識の葛藤、カーニバル的豊穡とカリカチュア、グロテスクなど多種多様な要素を含みもつに至りました。その理由が時に哲学、宗教学、精神分析、人類学の知見を援用しつつ読み解かれ、一級のITE美術批評ともなっています。巻末では、現地を訪れて取材・文献調査を行った訳者が、ITEアート発見の経緯や独自性を簡明に解説してくれま

す。日本初のITEガイドとしてもお役立てください。（編集部）

ISBN978-4-7918-1317-6

9月下旬刊

B5変型（176×216mm）並製
一九〇頁オールカラー 予三三〇〇円

好評刊

北緯60度の「日本語人」たち

「フィンランド人が日本語の謎を解く」

ヘルシンキ大学世界文化学科 編／植村友香子＋O・スメイトルンド 監訳 二七五〇円

フィンランド公共図書館

（躍進の秘密）

吉田右子・小泉公乃・坂田ヘントネン 著

二七五〇円

著者 Veli GRANÖ 写真家、映像作家、ITE確立に深く関わった批評家。フィンランド芸術大学教授等を歴任。視覚芸術作品で国内外の賞を受賞する他、キュレーターや国家的芸術プロジェクトの要職を務める機会も多い。植村友香子 香川大学インターナショナルオフィス特命准教授。専門はフィンランド研究、異文化間教育研究。



「問いに向き合い続ける教室」では、子どもたちの目の輝きが違う！

「答え」にばかり執着するのをやめ、「問い」とともに生きる人生を切り拓くために！臨床心理士が提唱する新たな教育文化

問いをたずさえるために

臨床心理士がまなざす「答えのない教室」の可能性

畠山正文

◆ジャンル：教育／臨床心理

私たちはいつから、「正しい答え」を求めることばかりに夢中になってしまったのだろうか。不登校、いじめ、自殺、学級崩壊、教員の離職——今日の学校現場には数多くの課題が存在する。それらの背景には、子どもたちだけでなく、大人たちもまた「答え」ばかりを求め、「問い」の内にとどまれないことが深く関わっているのではないだろうか。

本書は、二〇年にわたり学校や地域、企業などで心理支援に携わってきた臨床心理士が、日本とカナダの教育実践を往還しながら、「問い」とともに生きるこの意味を探究した一冊である。本書で紹介するBTC (Building Thinking Classrooms: 「考える教室」をつくる) の実践は、単なる授業改革ではない。子どもたちが互いの違いとであり、自らの問いを動かしながら学んでいくための新しい教育文化の提案である。そこでは、知識を覚えることや答えを導くことよりも、問いに向き合い続けることそのものが尊重される。

また本書では、カナダ先住民の世界観や哲学者・心理学者たちの思想を手が

かりに、「主体性とは何か」「自由とは何か」「先生とは何者なのか」といった根源的なテーマについても考察している。教育に携わる人だけでなく、子育て中の保護者、対人援助職、そして人生の岐路に立つすべての人に読んでいただきたい。

「人生は、答えを見つける旅ではない。問いとともに生きる旅である」

この本が、読者一人ひとりの内なる問いと再びであうための、小さなきっかけとなることを願っている。

(はたけやま・まさふみ)

ISBN 978-4-7918-1318-3

9月上旬刊

四六並製 二〇八頁 予二四二〇円

答えのない教室

〔3人で「考える」算数・数学の授業〕
梅木卓也・有澤和歌子 二四二〇円

答えのない教室 パート2

〔流山市立おおくの森中学校での教育実践〕
池田吉久 二四二〇円

答えのない教室 パート3

〔流山市立おおくの森中学校における全教科改革戦略〕
流山市立おおくの森中学校編 二六四〇円

著者 臨床心理士・公認心理師。株POLYLOGUE代表取締役。心理臨床オフィスえんノート運営。前橋市教育委員会教育委員。20年にわたり学校、教育委員会、医療機関、企業などで心理支援に携わる。スクールカウンセリングや企業におけるメンタルヘルス支援、人材育成にも従事。



著者近影（いずれも著者サイトより）

教師が上から答えを与えるのではなく、生徒とともに問いを立てる
クエスチョナーになることで学びは変わる！米国発最新メソッド

教室を変える 素晴らしい問い

好奇心と問いの文化を育てる教室へ

ウォーレン・バーガー&エリス・フォスター 平野貴美枝 訳

◆ジャンル：教育

「なぜ？」「もしも？」「どうすれば？」
子どもが世界と出合うとき、最初に発するのはいつも「問い」だ。研究によれば、子どもの問いは四歳頃にピークを迎え、その後は学齢に伴い着実に減っていくという。授業中に手を挙げるのは「答える」ためであって、「問う」ためではない。教師が問い、生徒が答える。その構図を当然のものとして、私たちは学び育ってきた。

本書は、その当然を問い直す一冊である。著者のウォーレン・バーガーは、前著『Q思考』でイノベーションと問いの関係を描いたジャーナリストである。本書ではエリス・フォスターとともに教育現場に焦点を絞り、「生徒が自ら問いを立てる文化」をどのように築くのかを丁寧に論じている。

鍵となるのは、教師自身が「より良いクエスチョナー（問いを立てる人）」になることだ。権威としての教師ではなく、生徒と一緒に問いを探索する伴走者としての教師。その転換が、探究学習の本質だとバーガーは言う。本書では、問いを阻む五つの壁（恐怖・無関心・無知・時間・文化）を丁寧に分析したうえで、それぞれへの対処法を提示する。問いを「スーパースター」として生徒に示

す方法、安全に問いを出せる教室環境のデザイン、生徒の好奇心を刺激する実践的な活動など、明日の授業からすぐに使えるアイデアが満載である。

日本の教育現場でも「探究の授業」が当たり前になりつつあるが、「生徒に問いを立てさせる」局面で多くの教師が行き詰まっている。その根本には、問いを歓迎しない教室文化という問題がある。本書は、その文化そのものを変えるための、実践的かつ根拠のある手引きである。読了後、あなたはきっと「自分はクエスチョナーだろうか？」とか「自分の学校や教室に、問いの文化を築けるだろうか？」と問いたくなるだろう。

（ひらの・きみえ クエスチョンデザイナー／教育学修士）

ISBN 978-4-7918-1319-0 9月下旬刊
四六並製 二八〇頁 予三三〇〇円

ハテナソンの本

「問いづくり」への旅

佐藤賢一

二四二〇円

好評刊

問いがカラの本

「問いをハックする、問いで学びを開く」
佐藤賢一

二六四〇円

著者 Warren BERGER ジャーナリスト・著述家。「問い」の力を探求するウェブサイト AMoreBeautifulQuestion.com創設者。主著『Q思考 シンプルな問いで本質をつかむ思考法』（ダイヤモンド社、2016年）。Elise FOSTER 教育界・産業界のリーダーを対象とするリーダーシップ・コーチ



宮城県石巻市、震災で亡くなった
身元不明のご遺体が埋葬された
仮設墓地

誰かがやらなければならない！その時、私たちにそれができる
だろうか？現場の証言の中に「生を守る」術を探る迫真の記録

死の現場に立つ人たち

ご遺体のそばには「人」がいる(仮)

波名城 翔

◆ジャンル：精神保健福祉・社会福祉

みなさんは、死んだあとに何が起きるのか、知っていますか？ 遺体が発見されるまでの日数、腐敗が進んだ室内を清掃する人の存在、損傷した遺体を修復し、家族のもとへ送り届ける技術、孤独死が起きた部屋に次の入居者を迎えるまでの不動産業者の葛藤、東日本大震災の被災現場で遺体の収容に携わり、仲間の自殺とも向き合いながら生きる元自衛官の記憶——本書は、こうした「死の後始末」を担う人々へのインタビューをまとめたものである。

二〇二五年の自殺者数は一万九〇〇〇人を超え、二〇二四年に自宅で孤立死された人の数は七万六〇〇〇人以上に上る。自殺は「死を選ぶ行為」であり、孤立死は「死に選ばれた結果」とも言える。どちらも「孤独」と「孤立」の先にあるものだ。統計はその事実を数字として記録するが、その後何が起こるのかはすくい上げない。記録ではなく、「記憶」しているのは現場の人たちということになる。

特殊清掃業者は、「孤独死は防げない。でも、早く見つけることはできる」と言う。遺体管理師は、「依頼者は優しい人ばかりだから、いいエピソードしかないです」と言う。不動産業者は、「親に迷惑かけちゃうって想像はされると思う。そこで少し考えてもらえれば」と言う。そして元自衛官は、「日常の声かけがもっとも重要だ」と言う。死に向き合う仕

事をしていく人たちは、誰もが「生を守ること」を考えていた。

宮古島出身の社会福祉分野の研究者として私は、これまで自殺対策をテーマに研究と執筆を続けてきた。講演などで学生たちに死後のリアルを話した際に「うわー」という声が漏れる。「死」を自分事として捉える瞬間である。この瞬間に私は、「抑止力」の芽生えを感じてしまふ。死んだあとに何が起きるのか、それを知ること、それを想像することが、孤独・孤立のなかで「死を考えている人」を引き留めることにつながるかもしれない。

死は、一人では完結しない——この事実を多くの人に知ってほしい。

(はなしろ・しよう)

ISBN 978-4-7918-1330-6 10月上旬刊
四六並製 予三〇四頁 予三三〇〇円

波名城 翔 好評既刊書

市民目線で「自殺」を考える

〔マニュアルでは寄り添えない〕

二四二〇円

離島の光と影

〔シマ〕の観光と自殺

三〇八〇円

自殺者を減らす！

〔ゲートキーパーとしての生き方〕

二四二〇円

著者 沖縄県宮古島出身。精神保健福祉士／社会福祉士。障害、医療、行政機関を経て大学教員へ。琉球大学人文社会学部准教授。沖縄県自殺対策連絡協議会委員。著書に『自殺者を減らす！』、『離島の光と影』、『市民目線で「自殺」を考える』など。

ラーゴムが描く社会

鈴木賢志

「スウェーデンの「ちようどよい」国づくり」何ごとにつけ「ほどほど」をよしとする哲学の奥深さに学ぶ。四六並製 二二四頁 二四二〇円



現代を生きる北欧の先住民族「サーメ」の若者たち

長谷川紀子

「北極圏と二風谷をめぐる旅」極北に生きる先住民族の若者たちが、気候危機に挑み共生の豊かさを問う。四六並製 二二八頁 三〇八〇円



サーファーと環境のエコロジー

宮澤優士

「一宮町におけるボロボロの連帯」サーファーの聖地で続く特殊な連帯を最新の生態学理論から探る試み。四六並製 三〇四頁 三五二〇円



エコロジー階級の登場についての覚書

川村久美子 訳・解説

ブルーン・ラトワール＋ニコライ・シユルツ この新しい階級概念は、私たち一人ひとりの明日の姿を描いている。人間を大地につなぎ直す大いなる反転。四六上製 二〇〇頁 二四二〇円



鳥と詩人

ジョン・バロース／田中浩司 訳

「自然と文学を愛する人たちへ」博物学の浩瀚な知識と奥深い思索によって「科学と詩」を結ぶ自然随筆の傑作。本邦初訳。四六並製 四〇〇頁 四九五〇円



「新訂版」作家の時間

プロジェクト・ワークシヨップ 編

「書く」ことが好きになる教え方・学び方「実践編」作家として悩み考え書く力を育む画期的な学びの実践集、待望の新版。A5並製 二四〇頁 二七五〇円



かや 榎に魅せられて

黒葛原伸吉 編著

「宮崎県綾町に生きる「現代の名工」熊須健二」聖地・綾町の幻の榎で魅せる、盤師の神業と執念に迫る一冊。四六並製 二二四頁 二四二〇円



福島県いわき市

関 満博

炭鉱閉山、原発被災からの復興と新たな産業創造。いわき市市制施行60周年記念出版。炭鉱閉山も震災も乗り越えた奇跡の都市いわきの足跡と未来。A5上製 七二頁＋四頁 九九〇〇円



ピーター・リリヤドル／梅木卓也監訳／有澤和歌子監修『「考える教室」をつくる——授業は「ここ」まで変えられる』

14要素に分け効果的な方法示す

■評者・浅田和伸（長崎県立大学学長）

2024年9月23日の本欄

で紹介した『答えのない教室』

（梅木卓也・有澤和歌子著）の、

『日本教育新聞』2026年5月4日

いわば原典である。著者は数学教育学の教授で、原題は『Building Thinking Classrooms in Mathematics』だが、「考える生徒を増やし、生徒が考える時間を増やす」実践方法を追究する姿勢は、当然、数学以外の教科にも通じる。それを「経験と勘」ではなく、観察や検証を通じ、14の要素について「思考を促すための最適な実践」を抽出、提示している。

例えば、どのような課題を使用するか、グループづくり

の方法、机や椅子の配置、質問への答え方、生徒の自主性を育む方法、ノートの取り方などから、宿題の再定義（演習ではなく「自分の理解を確認するため」の問題にする）、評価方法や成績の付け方などにも及ぶ。

生徒たちが教科書やワークブックの問題を「授業中の例やノートを真似て答えるもの」と見てしまいがちなことや、解法を見ることを「学習」と思い、写したノートに書いてあることが「知識」だと勘違いしがちだといった指摘は、現場でも

「薄々感じてはいたが……」という耳の痛い話ではないだろうか。

教師なら誰もが「考える教室」を目指したいと思う。本書は「実証」を元にその大きなヒントを示す貴重なものだ。こうした研究の成果なども参考にしながら、ぜひ、より良いやり方を模索し続けてほしい。

「考える教室」

をつくる

ピーター・リリヤドル／梅木卓也監訳／有澤和歌子監修
『授業は「ここ」まで変えられる』

生徒も教師も算数・数学が好きになる「答えのない教室」の理論的、実践的ルーツとノウハウ満載！
A5並製 三九二頁 四九五〇円

『日本教育新聞』書評
ISBN978-4-7948-1302-2



本を売る

「森」の総合書店で、フルラインを貫く矜持

千葉県流山市の店舗に店長として着任して2年半を超えた。それまで「住みたい街」として人気があり、人口増が続いている自治体というイメージは持っていたが、実際はどんな街なのかとても興味があった。来てみると、中高層マンションの多い新興都市ながら、無機質な感じはせず、温かみのある街という印象を受けた。建物は密集していないし、緑豊かで木の温もりが満ちたとても心地よい空間だ。そして当店が入る「流山おおたかの森S・C」(ショッピングセンター)は、各チェーン内でも最大級の大型店舗が揃い、売上規模もかなり大きい。平日の昼間も含めて多くの人があり、活気に溢れている。

こうした好立地のもとで、売場面積も売上規模も大きい当店は、今や稀少となりつつある所謂「総合書店」として全ジャンルをフルラインで揃えている。雑誌を始め他商材を積極的導入し、イベントスペースを増やしていくのが書店業のトレンドとなっている中で、書籍の在庫・売上は必然的に減っていく。人口が増え続け、活気がある人気エリアにもかかわらず、この流山市にもフルラインの総合書店は当店以外に無い。しかし、情報の選択肢が無限に広がるデジタル時代において、あえて書店という物理的な空間に足を運び、偶然の出会いに期待する人々は確実にいる。当店が総合書店として、若い世代が多く、知識欲旺盛なこの地域の人々の本に対する要望に真摯に応えていかなばと考えている。

在庫確保と品揃えにあくまでこだわり、接客・発注・品出しなどの凡事を日々徹底する。その結果として、売りたい本が売れたり、お客様に喜んでもらえたりする。そのことを喜び、仕事の楽しさに循環させて、さらなる良い店作りを目指す。この基本に忠実な姿勢でどこまで行けるだろうか。まだまだやれることはある。本という「知」を手に取れる環境を守り、街の文化を支える拠点として、この場所を人と本の物語が紡がれ続ける未来を信じている。さあ、あがき続けよう。

紀伊國屋書店流山おおたかの森店

久保島 淳

本誌表示価格はすべて税込です。

書評日誌(4・1~5・12)

◎書評 ◎紹介 ◎関連記事

- 4・1 ◎教員おすすめ図書2026(城西大学水田記念図書館)『昔はよかった』と言うけれど(真殿仁美)
- 4・11 ◎日本海新聞『炊飯器で世界をめぐる「ハテナ井」の旅』
- 4・15 ◎世界の〇〇(千代田区立四番町図書館)『すてきなテーブル』

- 5・4 ◎日本教育新聞『考える教室』をつくる(浅田和伸)▶p.6
- 5・12 ◎WAN(ウィメンズアクションネットワーク)サイト『女を憎めと教わった』
- 5月 ◎みんなちがってみんないい(福知山市立図書館中央館ブックリスト)『はくは にんげん』

『日本海新聞』紹介
ISBN978-4-7948-1309-1



炊飯器で世界をめぐる「ハテナ井」の旅 佐藤賢一

「大学教授が「問い」を炊いて世界を食べる」「世界21地域×井×炊飯器」という前代未聞の問いの実験が始まる! さあ、メシを炊こう!

四六並製 一七〇頁 二四二〇円

田中東子氏書評(共同配信)
ISBN978-4-7948-1306-0



女を憎めと教わった

ポリーヌ・フェラーリ・ダコスタ吉村花子訳

「SNSで拡がるマスキュリズムの闇」世界中で猛威をふるう男性優位主義と女性への暴力。SNSを通じたその拡散・増幅のメカニズムを読み解く。

四六並製 二八〇頁 二八六〇円

本を読む

異文化市場の解説法

日本企業が海外市場に進出する際に、日本製の品をそのまま持っていくと、同じ商品名、同じ色、同じコンセプトで売っても買ってもらえないことがよくわかった。進出先の国の文化や風土に適合するよう工夫しなければ通用しないのだ。こうした事情は進出企業に勤めているのでもないかぎり縁遠く思われがちだが、そういう企業の果敢な努力なしに日本の輸出立国もないという現実を認識するだけでも、本書を読む価値はあるだろう。(世田谷区 空手指導員 手塚淳二 51歳)

一神教のラテンアメリカ

宗教面からのアプローチによって中南米の歴史的成り立ちや政治構造をも映し出す内容で、興味深く読破しました。当地の歴史や社会を理解する上でとても参考になる一冊です。(京都市 住本剛史 57歳)

社会科ワークショップ

学習内容よりも方法(「サイクルを回す」など)を重視した実践

が紹介されており、長年「社会科」を研究してきた私にとって「総合的な学習」に近いものに感じられました。研究熱心な人ほど「社会科はこうあるべき」という先入観が強く、自分たちの実践とあまりにかけ離れた手法には拒否反応を起こしがちですが、私としては「実践してみよう!」と思わせてくれる内容でした。(川崎市 教員 岡田 渉 49歳)

好評刊

異文化市場の解説法

〔意味づけ〕の国際比較

川崎基天

二七五〇円

一神教のラテンアメリカ

〔ユダヤ教・キリスト教・イスラム教をめぐって〕

栗 浩子

三二二〇円

アイルランドから東北へ

〔周縁と漂着の詩学〕

佐藤 亨

二九六〇円

社会科ワークショップ

〔自立した学び手育てる教え方・学び方〕

富田明広・西田雅史・吉田新一郎

二六四〇円

訪問看護師ものがたり

〔在宅の力〕

嶋守さやか

二二〇〇円

編集部から

北欧の鬱蒼とした森のあわいに突如現れる巨大コンクリート彫刻の群れ。ふだんは目を逸らしている生の歓喜と死の恐怖を突きつけられ息を呑む。制作者の知己が綴った評伝に出会い、好奇心は共感に変わった。新刊『ウェイヨ・ロンツコネの生涯』で明かされる芸術家の人生は、葛藤と自己疎外と自己探求の無限連鎖だった。ヨガと水泳と芸術表現を通して、暗示や自己啓発の手法では決して辿りつけない境地を見つけた魂の軌跡が痛切に胸を打つ。死を直視できない私たちに代わって「死の後始末」をする人たちがいる。その声に耳を澄まし、「生を守る」道を探る『死の現場に立つ人々』を乞う御期待。前号でご紹介したロイス・ローリ最新作『Building SOS (903号棟)』の日本語版権を取得しました。邦訳刊行をお楽しみに!

営業部から

▼直近3ヶ月(2026年3月、5月)弊社のアマゾン売上ベスト15をご紹介します

- 1 女を憎めと教わった
- 2 感情と社会性を育む学び(SEL)
- 3 教科書では学べない数学的思考
- 4 たった一つを変えただけ
- 5 大学での学びをハックする
- 6 ギヴァー記憶を注ぐ者
- 7 虚構の「近代」
- 8 答えのない教室
- 9 あなた自身の社会
- 10 「考える教室」をつくる
- 11 地球に降り立つ
- 12 世界一やさしい
- 13 SELを成功に導くための五つの要素
- 14 新装版ガブリエル・フォール
- 15 ひとつからはじめよう

SBBC(新評論ブッククラブ)のご案内

会員は送料無料!各種特典あり!お申し込みを!

当クラブ(一九九九年発足)は入会金・年会費なしで、会員の方々に弊社の出版活動内容を紹介する月刊PR誌「新評論」を定期的に送付しております。入会登録後、弊社商品に添付された読者アンケートハガキを累計5枚お送りいただくことで、全商品の中からご希望の本を1冊無料進呈する特典もございます。ご入会希望の方は小社HPフォームからお送りいただくか、メール、またはハガキにて、お名前、郵便番号、ご住所、電話番号を明記のうえ、弊社宛にお申し込みください。折り返し、SBBC発行の「入会確認書」をお送りいたします。